

県産清酒の品質向上に関する研究
(中間評価)

質問

回答

E委員	低アルコール酒の炭酸ガス圧はどれくらいにするつもりですか。	市販酒の調査では炭酸がきついという評価が出ています。弱い方が良いと考えています。
D委員	低アルコール酒は清酒の枠にこだわる必要があるのですか。発泡酒が売れている現状を見れば原料にこだわらず、安いもののほうがよいのではないですか。	現在の酒造メーカーで保有している酒造免許の関係から清酒の範囲で商品化したほうが企業化しやすいと考えています。
C委員	文化的な酒と一般的な酒と創造的な酒とに分けて考えた場合、一般的な方ををねらっているのですか。他を指すにしても何をやるか方向性をはっきりさせないといけなと思います。特徴付けができなくなるのではないのでしょうか。	酒豪を基準に考えると新しいものではないと考えています。低アル酒は主流ではないところを狙っています。
B委員	学生はチューハイをよく飲んでいますがそれが主流になってしまっているため、清酒をブレンドして作るほうが簡単ではないのでしょうか。コストが高くと難しいのではないですか。	新たに雑酒免許を取るの難しいので、県内企業への普及を考え、清酒で行きたいと思えます。主流ではありませんが、清酒の範疇で新しい商品として提案していくつもりです。
	低アル酒は県内メーカーが出している商品の様なものを考えているのですか。	そうです。
F委員	宮城県で生産されている女性向け低アル酒はおいしいと好評です。	市販酒アンケートで最も高い評価でした。
G委員	いわば正統派とお子さま向けの違いがあるので低アル酒は吟ぎんがとははなれて考えた方がよいと思います。吟ぎんが、ぎんおとめのイメージが悪くならないようにした方がよいと思います。	低アル酒と、吟ぎんが、ぎんおとめを使った高付加価値酒の2本立てで進めていきます。
C委員	二極化は避けられないでしょう。酒文化を守るのも大切だし、新しいものを作っていくのも大切だと思います。	部内でも担当を分けて進めていきます。